

# 松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

2020年7月31日 発行

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井宣光

(今年度よりHPおよびClassi配信のみとしています)

あなたがたは、以前には暗闇(くらやみ)でしたが、今は主(しゅ)に結(むす)ばれて、光となっています。

光の子として歩みなさい。

(エフェソの信徒への手紙 5:8)

## 学校再開後の表情から 「言葉の比重」を少しだけ高めて

ソーシャルディスタンスのもと、講堂での礼拝や、各自の座席でお弁当を広げる教室の光景が見慣れたものとなりました。グラウンドで運動部員が、熱中症予防のためマスクをせずに練習している姿を見ると、少しばかり妙な感覚に陥ります。マスク姿の夏服が学校の日常になっているのです。彼女たちが見せる顔半分の表情や態度から、心のあり方をくみ取ることの大切さをあらためて思います。朝、校門に立って挨拶をしていると、声をふだんより大きめに出し、視線を合わそうとしている自分の姿にふと気付きました。無意識のうちに、足りないものを補おうとしているのかも知れません。

非言語(ノンバーバル)コミュニケーションという用語があります。米国の心理学者アルバート・メラビアンの研究によると、会話の際に相手から受け取る情報を100とすると、言葉として聞く情報はたった7%と低い割合で、「非言語」である声の大きさや速さなどが38%、相手の視線や態度、表情といった見た目の情報が55%を占めるそうです。「メラビアンの法則」つまり、言葉によるメッセージよりも非言語コミュニケーションによるメッセージのほうが、相手に影響を与える度合いが強いのです。ちょうど現在の中高生が生まれた頃、「人は見た目が9割」という本がベストセラーになりましたが、同じような趣旨で書かれていたと記憶しています。



<1学年ずつの講堂礼拝(中2)>

校内でのマスクの着用はしばらく続きます。表情が隠れてしまうと、話し手の気持ちを読み取ることが難しくなることは当然でしょう。「コロナの時代」やら「ウイズコロナ」と言われますが、心のあり方を丁寧に読み取る姿勢が求められているように思います。ある先生から次のような話を聞きました。全国一斉休校に入り、皆がマスク姿になった頃からは、人に話しかけられた時には相手の言葉を最後までしっかり聞くようになった気がする。相手が話し終えた後もワンクッションを置き、返す言葉についても以前より言葉数が多くなっている。いい年齢(とし)になって、コロナで良いことに気付かされた。



<自席での昼食(高3)>

人との距離をとり、「三密」を避けて過ごす世の中ですが、対話の機会があるならば、相手の気持ちをくみ取ろうとする姿勢を欠かさず、言葉の比重を少し高めて丁寧に気持ちを伝えること。非言語コミュニケーションのアンテナもたくさん立てながら、この心がけを「コロナの時代」終了後も続けたいものです。

## 1学期のクラブ活動 文化部の活動発表会、アーチェリー部の活躍

例年、GW前半には文化祭を開催していましたが、休校のため中止しました。高校3年生にとっては最後の文化祭でした。学校再開後は、幸いなことに感染状況が落ち着いていましたので、クラブ単位であれば教室展示や舞台演技も可能と判断し、各部に代替行事としての活動発表会を開催していただきました。限られた活動時間のなかでの準備でしたが、華道部を皮切りに、

モダンダンス、フォークソング、放送、器楽弦楽(マンドリン、バイオリンアンサンブル)、コーラス、漫研、演劇、書道、写真、ハンドベルの11部が舞台演技や教室展示を行いました。どの発表も休校期間のブランクを感じさせることはなく、素晴らしい内容ばかりでした。参観された保護者の方も大変よろこんでおられました。各部の様子を写真で紹介します。



<6月27日 華道部>



<7月1日 フォークソング部>



<7月2日 放送部>



<7月10日 写真部>



<7月9日 漫研>



<7月10日 写真部>



<7月10日 書道部>



<7月4日 器楽弦楽部(マンドリン / バイオリンアンサンブル)>



<6月29日 モダンダンス部>



<7月5日 コーラス部>



<7月11日 ハンドベル部>

運動部では、夏の全国高校総体(インターハイ)と中学総体が中止となりましたが、7月下旬以降、種目によっては独自の地区大会が行われています。すでにアーチェリーの兵庫県高校総体(代替大会)が開催され、本校は下記のとおり個人および団体で優勝、高校3年の波部日葵さんが2冠を成し遂げました。松蔭が県総体を制したのは5年ぶりのこととなります。他の部は、現時点では、バスケットボール部(高)、ソフトボール部(高)、水泳部(中)、バドミントン部(中高)が代替大会に出場する予定です。

兵庫県高校総体(代替大会) (団体) 優勝 松蔭高校(波部、小平、楠本、杉本)

(個人) 優勝 波部日葵(高3) 第5位小平実優(高3) 第6位 杉本歩美(高1)

## 終業式 放送礼拝のお話

終業式は、校内放送により行いました。有名な聖書の箇所「地の塩と世の光」を坪井チャプレンに朗読いただいた後、「光」をテーマに次のように話しました。

(マタイによる福音書5章13節～14節)

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。」

はじめに、皆さんに感謝の言葉を伝えたいと思います。7月の半ばの出来事です。学校の近くの保育園に通う子供さんとお母さんが道路で園児用の手帳を落とされたそうです。松蔭生がそれを拾い、保育園に届けてくれたそうです。園の職員の方は、制服を見てひと目で松蔭生だとわかりましたので、「松蔭の生徒さんが届けてくれましたよ」とお母さんに伝えてくれたそうです。そのお母さんは、学校に立ち寄られ、お礼の気持ちを申し述べられました。その後のことです。松蔭生が、近所の学校の校章を王子公園駅付近で拾い、その学校に「校章を拾いました」という電話を入れたうえで、わざわざ事務室まで届けてくれたそうです。松蔭の生徒さんは、親切で素晴らしいですね、とその学校の先生からお礼の電話をいただきました。ちょっとした行いですが、私からも感謝の気持ちを伝えます。ありがとうございました。

今日は、1学期を終えるにあたって「光」にまつわる話をします。世間では10日ほど前から、日本政府による国内旅行を推進する政策が始まりました。「GO TO トラベル」という観光キャンペーンです。感染拡大が心配だ、という声や、旅行者や旅館など観光業に従事する会社や人々を助けるためには、このキャンペーンは止むを得ない、などの意見を聞いたことがあるでしょう。

さて、観光という単語ですが、「光」という文字が使われています。「光を観(み)る」という漢字です。では、なぜ旅行に行くことが、光を観ることになるのでしょうか。「観光」という言葉は、昔の中国の書物である「四書五経」の一つ、「易経」の中の「觀國之光」という言葉に由来し、その地域の光輝く価値あるもの、つまりその地の自然や文化、食べ物、政治、暮らしぶりなどの良いものを「光」と呼び、これをよく「観(み)よう」というのがその語源といわれています。今の時代の観光は、たんに旅行するだけです。遊びやレジャーと言えますが、もともとの観光の意味は、心を込めていろいろな物事を見て、学んで、理解するという意味でした。

「光」は、その土地にある、独特の良いもの、素晴らしい事物を指しました。さきほどチャプレンに読んでいただいた聖書に、「あなたがたは世の光である」という箇所がありました。聖書の他の箇所では「あなたは光の子となりなさい」「光の子として歩みなさい」という言葉も記されていて、一人ひとりが神様に愛された、かけがえのない大切な人ですよ、というのです。「光」というのは、中国の古い思想でも、キリスト教でも、大切なもの、かけがえのないものを表しているという点と似通っているようです。

さて、「光」は1種類だけではありません。太陽の眩しさも、ロウソクのほのかな明るさも「光」と呼ばれますが、その中身はちがっています。「光」にはいろいろな種類があるのです。このような言い方を聞いたことがあるでしょう。「おぼろげな光」、「一条の光」、「やわらかな光」、「希望の光」等々。どの光も、プラスの意味で用いられていて、だめな光や人の足を引っ張る光はないように思います。消え入りそうな光であっても、暗闇では明るいのです。「真っ暗な光」などというのは存在しません。

私がいつも思っていることは、松蔭でキリスト教と巡り合った皆さんは、聖書が言うとおりの「世の光」であり、「光の子」であり、それぞれ種類のちがう「光」を持って、自分も周りも照らしながら生きている存在だということです。

今の世の中を「コロナの時代」とか、「ウイズコロナ」の社会、という言い方で表現することが多くなりました。重苦しく、嫌な感じの毎日で、将来も不安が一杯です。正直なところ、私自身もそのように考えてしまったりする、後ろ向きの思考回路に陥る瞬間があります。

しかし、1学期の皆さんの様子を見ると、「本当によく頑張った」という言葉がふさわしいように感じています。コロナの影響で、すべての学校生活において、思い通り、希望とおりの取り組みが出来ませんでした。そのような困難のなかでも、褒(ほ)めるに値(あた)いする1学期でしたし、一人ひとりの身体の中に「光」が見えた1学

期であったように思います。

最初に述べた、落とし物を届けてくれた松蔭生の行いにも、その人の「光」を見ました。皆さんは、光の子として、自分自身を照らし、時には周りも照らしながら、自信をもってこの時代を生きていただきたいと思います。明日から、いつもより短い夏休みですが、どうぞ気を付けて過ごしてください。2 学期もマスク姿のままでしょうが、元気な姿でお会いしましょう。(7月31日1学期終業式 放送礼拝、校長講話より。掲載用に一部改変)

## **私学への公的補助 2019年度に国、兵庫県、神戸市からの助成金は次のとおりです。**

私立学校の経営は、保護者の皆様から納入いただく校納金と公的補助(私学助成)により成り立っており、本校では、学校会計の約3分の1の額を占めています。毎年、それぞれの私学の教育活動のすべてが精査され、助成金の額が決定されることになっています。昨年度(2019年度)の本校への助成金が下記のとおり確定したとの通知を受けましたので、お知らせいたします。

①兵庫県の経常費補助金など	305,997,133 円
②国庫補助金	245,000 円
③就学支援金	35,630,100 円
④神戸市の助成金	2,534,144 円